



有明獅子舞

富山県入善町から伝わった
獅子と天狗の迫力ある舞

初山別村茂築別（現在の有明地区）に伝えられ、昭和60年（1985年）には村の無形文化財（民族芸能）第一号に指定された。「有明獅子舞」は富山県下新川郡入善町から集団入植した中の一人、上田勇左エ門氏が、郷里の獅子舞を継承するために伝えられたと言われています。現在も大切に保存されている獅子一式や天狗面、衣装などは明治36年（1903年）に一度郷里を訪れた上田氏が現地で購入して持ち帰ったもので、明治39年（1906年）9月に部落の若者を集めて組織が作られ、以来100年を超える長きにわたって、伝承されています。

有明獅子舞は「獅子起こし」「傘踊り」「長棒踊り」「大天狗舞」など11種類の踊りで構成され、獅子のいびきに驚いた天狗が立ち木から飛び降り、獅子と格闘する場面が特徴です。手踊りもあり、一連の踊りで2時間半の構成。毎年9月14日に行われる有明八幡神社宵宮祭に奉納され、収穫の秋の祈願と悪魔払いの祈祷が行われています。

開墾のかたわら、上田氏が中心となり、踊りや笛の習得鍛錬に励んだ獅子舞のメンバーは当初の若手から青年団へ受け継がれ、戦時中は継承が困難だった時期もありましたが、昭和40年（1965年）には有明獅子舞保存会が発足。現在も地区ぐるみで伝承・保存に努めています。平成15年（2003年）には伝承100年を記念して、保存会のメンバーが初めて富山県入善町上田地区を訪問し、同地区の神社境内で本家の獅子舞との競演を果たしています。

見どころ

有明獅子舞には11種類の踊りがあり、「獅子起こし」は天狗が飛び降りた音に驚いた獅子が目を覚まし、にらみ合って動き回るといった筋書きです。他にも色鮮やかな衣装の小天狗が子供の遊びを表現した「小天狗舞」、農作業が題材の「草刈舞」などがあります。

ポイント

有明獅子舞は昭和44年（1969年）9月、秋田県の秋田市民会館で開かれた第11回北海道・東北ブロック民族芸能大会に北海道代表として出場しました。文化的遺産としての評価は高く、昭和60年（1985年）には初山別村の無形文化財に指定されています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

知る

毎年、行われていた有明神社祭の宵宮祭では、有明小の児童と大人たちが村無形文化財の「有明獅子舞」を披露します。児童たちは神社境内で、提灯の明かりの下、小天狗舞や草刈舞を披露し、元気で軽快な動きに会場から大きな拍手がわきます。また、同保存会のメンバーが豊作を祝う十人舞、大天狗や小天狗による八人舞、ユニークな手踊りなどを演じ、会場をわかせました。平成21年の有明小学校の廃校や保存会メンバーの高齢化などにより、継承者追従が難しくなり、この年を最後に活動を休止することとなりましたが、村の地域おこし協力隊が中心となり、有明獅子舞有志の会を平成26年（2014年）に発足させ、有明獅子舞を復活させました。

■基本情報 (R1.5)

所在地：苫前郡初山別村有明 有明八幡神社境内
文化財指定：初山別村無形文化財
指定年月日：昭和60年7月24日
問い合わせ：初山別村教育委員会
TEL：0164-67-2136